

ナヒチバンにおけるガスパイプラインと物流の動向

ナヒチバンは、トルコ、イラン及びアルメニアの 3 カ国と国境を接していることや、ハイダル・アリエフ前大統領のルーツであることなどからアゼルバイジャンにとって非常に重要な地域です。しかし、アルメニアを挟んだ飛び地であるため、現在本土へのアクセスが空路に限られており、交通上のボトルネックとなっている、天然資源に乏しいといった問題を抱えています。これらの問題を解消するために、アゼルバイジャンは 2023 年 6 月 5 日付で承認された大統領令「ナヒチバン自治共和国における社会・経済発展に関する 2023-2027 年の国家プログラム」の下、様々なプロジェクトを立ち上げています（詳細は経済トピックメール第143号を参照）。今回は、このうちエネルギー・物流に関わるプロジェクトの近況を紹介します。

① トルコ・ナヒチバンガスパイプライン(下図参照)

経済トピック第154号でも紹介したトルコ・ナヒチバンガスパイプラインについて、今年の報道によれば、建設がまもなく完了し、年内の稼働が予定されています。同パイプラインはトルコ東部のウードゥルとナヒチバン間のおよそ100kmを結び、完成すれば TANAP を通じて年に5億立方メートルの天然ガスを輸送することができます。従来ナヒチバンへのガスはイランから供給されてきたのですが、同パイプラインの完成によりイラン以外からのガス供給が可能になります。

② ナヒチバン・カルス鉄道の改修

ナヒチバンとトルコ東部のカルスを結ぶ鉄道(ナヒチバン・カルス鉄道)を再建するために関連施設の改修に着手したことが報道されています。同鉄道の再建及び関連施設の改修により、ナヒチバン内部及び同地域からトルコへのアクセス改善が図られるほか、将来的には中国と欧州を結ぶ中央回廊の支線としても機能することが期待されています。

上記の①、②はともに友好国のトルコと接続することでナヒチバンにおける不便を解消することを目的とする事業であるため、ナヒチバンとアゼルバイジャン本土との連結性自体は改善されていません。ナヒチバンとアゼルバイジャン本土を最短でつなぐには、アルメニア領を通過するルートが必要ですが、政治的な問題の解決なしに実現することは困難です。しかし、アルメニアとの間で平和条約が締結された場合、同ルートの開通が現実味を帯びてきます。同ルートの開通は、ナヒチバンと本土の連結性の改善とともに、南コーカサスと東西を結ぶより合理的な物流ルートも形成され、地域の発展に寄与すると考えられます。

(以上)

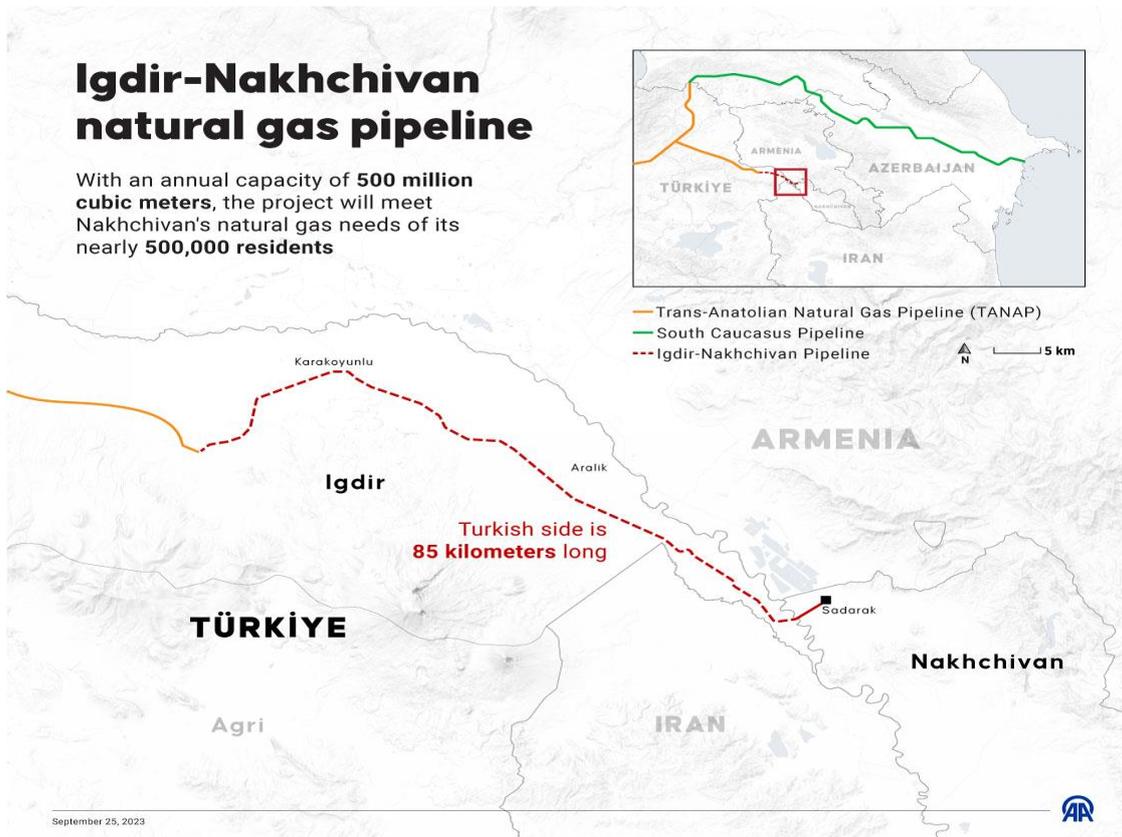


図1. トルコ・ナヒチバンガスパイプライン

(出典:<https://www.aa.com.tr/en/info/infographic/36013>)



図2. ナヒチバン・カルス鉄道（中央から左部分 出典:Stifung Wissenschaft und Politik <https://www.swp-berlin.org/en/publication/russias-war-on-ukraine-and-the-rise-of-the-middle-corridor-as-a-third-vector-of-eurasian-connectivity>)